

ボランティアのすすめ

本庁支部 田吹 泰孝＊

企画課に配属されて、NPOとの活動やワークショップへの参加など、出先にいた時の、設計や積算業務、施工管理とはまた違った分野での公共サービスに携わることが増えました。

今回、あるきっかけで、社会貢献の一つ海外ボランティアに参加することになりました。ボランティアの内容は、ハワイでのビーチクリーン。ハワイでは10年前より、アメリカの戦没者追悼日にあたるメモリアルデー（Memorial Day）に、日本の伝統式典の一つである、とうろう流し（Lantern Floating）が行われています。とうろう流しは、ワイキキビーチから車で15分のところにある、アラモアナビーチで開催されます。毎年数万人が集う、市を挙げての一大イベント（Lantern Festival）です。

ボランティアの行程は4泊6日。めったに経験することができない事でしたので、そのご紹介をしたいと思います。

出発は5月27日午後。全国から約80名の方が成田空港に集合しました。学生もいれば社会人、フリーターと、とにかくいろんな方がいました。いくつかの班に分かれて、自分はその班長という立場で参加することに。僕自身、一般ボランティアに参加することが初めてだったので、期待と不安を抱きつつ一路ハワイへ向かいました。

27日午前8時30分、ホノルル空港に到着。約7時間のフライトでした。時差ぼけを戻すため、眠らないようにそのままホテルへ。この日はボランティアはありませんので、途中、真珠湾、カメハメハ大王像、イオラ二宮殿などを観光しました。ディナーはバイキング。ハワイオリジナルのメニューを食べながら、参加メンバーと親交を深めました。

翌日から、いよいよボランティア活動のはじまりです。朝5時に起床しビーチへ。清掃活動の始まりです。

アラモアナビーチは、約1.5kmの砂浜が続いています。砂浜の背後に広大な芝生公園があします。メモリアルデーは、5月の最終月曜日にあたる祝日なので、多くの方が連休に合わせて芝生公園でバーベキューやキャンプなどをして家族団らんのひと時を過ごしています。

なので、ビーチも普段よりややゴミが多いかと思ってましたが、そこはモラルがきちんとしているハワイ。ビーチは見た目はすごくきれいで、砂



を掘り返してやっとゴミなどが見つかる程度。ガラス瓶の破片やタバコの吸殻などを一時間程度清掃しました。天候も快晴だったこともあって、清掃活動が終わった後はとてもすがすがしい気分でした。

朝食後、準備を整えて再度ビーチへ。お昼前でしたが、気温はすでに30度を超えていました。日差しは暑いというよりも痛いといった感じでした。また空気もかなり乾燥しているので、脱水症状にならないよう、ペットボトルは必携です。“早めに軽いランチをどうぞ”と言われもらったランチは、軽めどころか十分にお腹を満たしてくれました。ビーチを見渡すと、すでに現地ボランティアスタッフは準備を始めていました。イベントスタッフは総勢約1000人。地元大学生から地域の一般の方まで、老若男女いろんな方がボランティアに参加していました。このイベントを成功させようという雰囲気がいよいよ伝わってきました。

使用するとうろうが到着し、いよいよ自分たちも活動開始です。現地スタッフのリーダーの方の掛け声のもと始まりました。まずは、とうろうをトレーラーから下ろし、ビーチのカヌーへ積み込む作業です。現地の方の戦没者をはじめ、日本からも申し込まれたとうろうの積み込みを行いました。運搬中にとうろうの中にある蝋燭を一つ一つチェック。蝋燭が折れていないか、芯はきちんとなっているか、などのチェックです。イベントではありますが、この時はスタッフ全員が気持ちを込めて行いました。

積み込み後、今度は受付カウンターへ。片言でボキャブラリーの少ない英語を使いながら受付の整理をしました。ですが、専門用語はさすがに分からず、現役大学生に通訳をしてもらいながら、冷や汗をかきながらの取り組みでした。午後4時すぎ、受付もひと段落した後、とうろう流しを点火するための準備をしてビーチへ。開始は午後6時30分からでしたが、すでにビーチはイベントを見る人でかなり混雑していました。イベントのオープニングは、ハワイ名物のダンスから始まり、特別ゲストとして、世界的に有名なハワイ出身のウクレレ演奏者、ジェイク・シマブクロ氏の演奏、市長の挨拶等、式典が終わりいよいよとうろう流しへ。

日本ではまず見られないサンセットの風景のなか、徐々にとうろうを積み込んだカヌーが



最終日、成田空港に無事到着。行程をいっしょに活動した班員ともここで解散となります。



別れを惜しみながらまた縁があればと、笑顔で別れました。

このボランティア活動ではいろいろな事を学ばせていただきました。見ず知らずの方と集団行動をする難しさ、モチベーションの維持、気配り、こころ配りをする事の大切さなど。そして様々な課題を乗り越えたときの達成感、よろこび。公共サービスを提供する職にいる自分にとって大きな体験でした。社会貢献によって得られることは多々あると思います。地域に喜ばれる仕事をサービスを行うためにはどうしたらよいか。地域の視点に立って考える、相手の立場になって考えるというとは、言うほど簡単なことではありません。であれば、普段の仕事やプライベートから一歩踏み出してみることも、新しいひらめきや可能性を見つけるきっかけになると思います。今の自分よりもさらにステップアップした自分を目指して、これからもがんばりたいと思います。

＊土木部企画課企画班